【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和3年9月30日(2021.9.30)

【公開番号】特開2021-118980(P2021-118980A)
【公開日】令和3年8月12日(2021.8.12)
【年通号数】公開・登録公報2021-037
【出願番号】特願2021-85758(P2021-85758)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０
Ａ６３Ｆ　7/02　３３２Ｂ

【手続補正書】
【提出日】令和3年8月20日(2021.8.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技媒体が通過することによって遊技価値が付与される所定領域と、
識別情報の可変表示を実行可能な可変表示手段と、
遊技の進行を制御する主基板に設けられ、前記遊技媒体の所定領域への通過によって付与される遊技価値の付与数に関する第１情報及び第２情報を含む所定情報を表示可能な情報表示手段と、
前記主基板が封入されているとともに、かしめられた透明な基板ケースと、
前記基板ケースに貼付された封印シールと、を備え、
前記情報表示手段は、前記基板ケース内における前記封印シールによって隠されない位置に配置されており、
前記情報表示手段は、
前記第１情報及び前記第１情報を算出するための情報を集計する集計期間を特定可能な第１特定情報と、前記第２情報及び前記第２情報を算出するための情報を集計する集計期間を特定可能な第２特定情報と、を所定期間ごとに切り替えて表示可能であり、
前記第１情報を表示するための集計期間が経過していないときは、前記第１情報を表示せず、前記第１特定情報とともに数値とは異なる集計期間が経過していない旨の表示を行い、
前記第２情報を表示するための集計期間が経過していないときは、前記第２情報を表示せず、前記第２特定情報とともに数値とは異なる集計期間が経過していない旨の表示を行い、
所定のエラーが発生しているときは、数値とは異なる第１特殊表示を行うことが可能であり、
前記可変表示手段は、前記情報表示手段が前記特殊表示を行ってるときに、識別情報の可変表示とは異なる第２特殊表示を行うことが可能である、
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３

【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
また、特許文献１に示されるように、遊技盤の表面に遊技球の流下方向や速度を変化させる風車や多数の遊技釘が設けられているものがある。この種の遊技機においては、入賞口や通過ゲートの通過割合は、遊技盤に設けられた遊技釘の調整等によって変動する。この遊技機では、遊技釘などの調整により、遊技球の払出率の設計などを行うことがある。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
【特許文献１】特開２０１４－１１７５７６号公報
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
しかし、特許文献１に記載された遊技機では、遊技釘などに対してどのような調整を行ったかを遊技機の外部から認識することができなかったため、設計値通りの払出率となるか否かの判断が難しかった。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
そこで、本発明は、どのような調整を加えられたかを認識できる遊技機を提供することを目的とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（手段Ａ）本発明による遊技機は、
遊技媒体が通過することによって遊技価値が付与される所定領域と、
識別情報の可変表示を実行可能な可変表示手段と、
遊技の進行を制御する主基板に設けられ、前記遊技媒体の所定領域への通過によって付与される遊技価値の付与数に関する第１情報及び第２情報を含む所定情報を表示可能な情報表示手段と、
前記主基板が封入されているとともに、かしめられた透明な基板ケースと、
前記基板ケースに貼付された封印シールと、を備え、
前記情報表示手段は、前記基板ケース内における前記封印シールによって隠されない位置に配置されており、
前記情報表示手段は、
前記第１情報及び前記第１情報を算出するための情報を集計する集計期間を特定可能な第１特定情報と、前記第２情報及び前記第２情報を算出するための情報を集計する集計

期間を特定可能な第２特定情報と、を所定期間ごとに切り替えて表示可能であり、
前記第１情報を表示するための集計期間が経過していないときは、前記第１情報を表示せず、前記第１特定情報とともに数値とは異なる集計期間が経過していない旨の表示を行い、
前記第２情報を表示するための集計期間が経過していないときは、前記第２情報を表示せず、前記第２特定情報とともに数値とは異なる集計期間が経過していない旨の表示を行い、
所定のエラーが発生しているときは、数値とは異なる第１特殊表示を行うことが可能であり、
前記可変表示手段は、前記情報表示手段が前記特殊表示を行ってるときに、識別情報の可変表示とは異なる第２特殊表示を行うことが可能である、
ことを特徴とする。

（手段１）他の遊技機は、遊技を制御する主基板（例えば、主基板１１、主基板９０１１など）と、遊技媒体の通過により賞球が払い出される所定領域（例えば、第２始動入賞口となる普通可変入賞球装置９０６Ｂ、大入賞口となる特別可変入賞球装置９０７、第１始動入賞口となる普通入賞球装置９０６Ａ、一般入賞領域となる一般入賞口９０５０Ａ～９０５０Ｄ）と、前記所定領域への前記遊技媒体の通過によって払い出される賞球に関する所定賞球情報（例えば、役連、役比）を表示可能な情報表示手段（例えば、表示モニタ９０２９）と、遊技者の動作を検出可能な検出手段（例えば、プッシュボタン１２０やスティックコントローラ１２２、赤外線センサなど）と、遊技者の動作を促すための促進報知（例えば、第１操作促進画像や第２操作促進画像を表示する操作促進報知）を実行可能な促進報知手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００がステップＳ８１１１，Ｓ８１２５，Ｓ８１３９，Ｓ８１５３，Ｓ８１６７を実行する部分）と、前記検出手段により遊技者の動作が検出されたことにもとづいて、所定演出（例えば、各ボタン演出）を実行可能な演出実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００がステップＳ８１１４，Ｓ８１２８，Ｓ８１４２，Ｓ８１５６，Ｓ８１７０を実行する部分）と、を備え、前記促進報知手段は、一の動作（例えば、プッシュボタン１２０を１回押下する操作、連打する操作、および長押しする操作など）を促すための促進報知を、第１促進画像（例えば、プッシュボタン１２０の外観を模した第１操作促進画像）を少なくとも表示する第１パターンと、前記第１促進画像に加えて前記第１促進画像とは異なる第２促進画像（例えば、所定の文字を示す第２操作促進画像）を表示する第２パターンとにより、実行可能であり（図３２～図３４参照）、前記第１パターンと前記第２パターンとのいずれにより前記促進報知が実行されたかに応じて期待度が異なり（例えば、第１パターンにより操作促進報知が行われる当否煽り時ボタン演出の第１演出態様と、第２パターンにより操作促進報知が行われる当否煽り時ボタン演出の第２演出態様および第３演出態様とは、期待度が異なる。図３２（ｃ）参照）、前記情報表示手段は、前記所定賞球情報への視認性を妨げられないように前記主基板上に設けられていることを特徴とする。

そのような構成によれば、遊技者に分かりやすく期待度を示すことができる。また、どのような調整を加えられたかを容易に認識できる。